

同 同  
 吸物 吸物  
品川の花  
 同 同  
 同 同  
 同 同

奈良臺 木地縁糸花  
 菓 子 檜高とんぼう  
 葉の葉

押  
 結枝 せゐますや  
 こかんらんわう  
 んき べへちまかん  
 ぶ いいうん

蝶  
 千鳥 やうし

腰高 煮染むし貝  
 右同 せんまい  
 香の物

黄淺椀 餅菓子  
 うかまんぢう、外良餅、付彩餅、や  
 うづら焼、白はし

吸物 鱈松茸  
 さかな 一切かまぼこ

五三三膳

〔大草殿より相傳之聞書〕一五三三御めし集養の事ひざのくみ様前のごとく、これも五ツ目まで  
 参り候て、はしを取候時は、右の手をうつむけて、左の手をあをむけて取、右の手をはしにつけて  
 まはして取なをして、大汁とそのさきのさいとのあいだにて、はしをつきそろへて、大汁にては  
 しさきをひたし、わんを取あげ、めしをたべて大汁をすい、汁のみをばくはす候、さて鹽をはしに  
 てくい、又めしをくい、大汁をすふて手こしのさいをくふ、又食をくい、はし取なをし、二の手本の  
 ざるを右の手にて取、左右の手にて汁をすふてみをくふて、又汁をすふて、右の手にてもとのこ  
 とくをく也、扱さいごしのさいをくふ、又めしをくい、三ツ目の手本の汁をはし取なをし、左にて  
 とり、兩の手にて汁をすひみをすこしくふて、又汁をすふて、左の手にて本のごとくをく、其後運  
 のさいをくふ、又めしをくふて二の膳の右のはしの汁をすふ、集養前回前、其後めいのさいをく  
 ふ、又めしをくい、はし取なをし、三ツ目の左はしの汁をすふ、集養同前、其後るびをあつかふ、